

# BPW Newsletter JAPAN

Official Newsletter of National Federation of Business and Professional Women's Clubs of JAPAN

## 東日本大震災復興支援事業



2012.7.1  
Vol. 105

### CONTENTS

- 東日本大震災復興支援事業  
「女たちの、  
女たちによる仕事づくり」  
国際委員長 平松昌子
- イコール・ペイデイ  
4月16日はイコール・ペイデイ  
・イコール・ペイデイってなに？  
・各国のイコール・ペイデイ  
・イコール・ペイデイの算出方法  
・日本でのイコール・ペイデイキャンペーン
- CSW 国連「女性の地位委員会」  
インターン派遣事業報告
- 女性指導者育成事業  
JWLI フォーラム開催報告  
組織委員長 櫻井啓子  
横浜:2012年4月7日(土)  
「あなたの力が社会に生きる」  
和歌山:2012年4月8日(日)  
「あなたの力が社会を動かす」

日本BPW 連合会ニュースレター  
発行人: 理事長 松原敏美  
編集: 広報委員会

特定非営利活動法人  
日本 BPW 連合会 事務局  
〒151-0053 東京都渋谷区代々木  
2-21-11 婦選会館 303  
TEL.03-5304-7874  
FAX.03-5304-7876  
e-mail office@bpw-japan.jp  
ホームページ:  
<http://www.bpw-japan.jp>

## 第2回 「女たちの、女たちによる仕事づくり」復興支援

国際委員長 平松昌子

第2回支援金贈呈式が、風薫る5月26日仙台市のソララガーデンオフィスの会議室で行われました。

今回、支援金を贈られるのは、宮城県東松山市の「のり工房矢本」（代表者：津田清美さん）と仙台市の「つぎはぎすっぺ茶」（代表者：庄司恵子さん）の二つの事業所です。



2012年5月26日 第2回贈呈式

贈呈式には、それぞれの事業所を代表する津田清美さんと庄司恵子さんがそれぞれの製品をもって姿を見せ、和歌山から航空機と新幹線を乗り継いで駆けつけた松原理事長から30万円の支援金が贈られました。

### <受賞の声>

#### ◇のり工房矢本（のり製造販売：津田清美さん）

先代が塩釜神社の品評会で優勝しており、自分たちの代でも何とか質の良いのりを作ろうと、夫が養殖、そして私が製造を担当して努力し、昨年1月に優勝できました。しかし、設備投資をして機材を整えた直後に津波ですべてを失いました。このような形で私どもの小さな仕事場に目を向けて頂いたことに大変驚き、感謝の念に堪えません。今はまだ出発点ですが、この支援金で「海苔の八つ切り機械」を購入し、雇用を今の4名から増やして、秋には、夫たち海苔漁師が収穫した海苔で作った新海苔を、皆さんに食べて頂きたいです。

#### ◇つぎはぎすっぺ茶（手芸品製造販売：庄司恵子さん）

幸い蔵が震災での被災を免れたので、被災して気力をなくした女性たちを元気づけるということもあって、この蔵を利用して手芸品の製造販売を始めました。最近ネットでも紹介されたりして、蔵に来てくださる方だけではなく、販売ルートもひろがっており、講習会を開くなどして質の向上を図ると共に作り手も増やしたいし、漬物などの新しい仕事の展開も計画しています。支援金は、この事業の拠点である蔵のリフォームやパソコンの購入に当てたい。

また、会場にはBPWの支援活動では現地ではいろいろご協力をしてくださる「みやぎジョネット」の草野祐子さん<sup>\*</sup>も姿を見せ、「状況は地域でみな違う。でも女の人たちは他の女性たちを引き連れて立ち上がっている。こうした支援は、女性たちにとってありがたいものです」と話してくださいました。

なお、この贈呈式には、本プロジェクトリーダーである棚田副理事長をはじめ、地元・仙台クラブの佐藤わか子さん、山形の阿部典子さん、仙台市在住深沢副理事長の友人。それに連合会からは深沢副理事長(山梨)、土田企画委員長と平松災害本作成担当(東京)が参加しました。

<sup>\*</sup> 草野祐子さん代表の「みやぎジョネット」は平成24年度女性のチャレンジ賞を中川男女共同参画担当大臣から受賞されました。

「女たちの、女たちによる仕事づくり」復興支援

＜事業内容＞3月11日東日本大震災において震災被害を受けた事業所で、企業再建・再稼働しようとしている事業所、もしくは勤務していた企業が震災被害のため解散・倒産・解雇となったため、新たに起業する団体で、何れも女性の雇用の場の創出を目的とする事業所・団体に対し支援金として助成する。



2012年1月8日 第1回贈呈式

- ＜支援要件＞①震災被害を受けた事業所で、企業再建・再稼働使用としている事業所  
 ②勤務していた企業が震災被害のため解散・倒産・解雇となったため新たに起業する団体  
 ③何れも女性の雇用の場の創出を目的とする事業内容であること

- ＜支援事業所＞【第1回】◇ともこ助産院（仙台市）北原郁恵代表：支援高齢者手作り商品販売  
 ◇(株)千葉商店（宮城県南三陸町）千葉ひろ子代表：海苔加工販売  
 ◇マリンマザーズきりきり（岩手県大槌町）笹谷ヒロ子代表：食品加工  
 【第2回】◇のり工房矢本（宮城県東松島市）津田清美代表：のり製造販売  
 ◇つぎはすっぺ茶（仙台市）庄司恵子代表：手芸品製作販売

賃金格差への挑戦

イコール・ペイ・デイ

同一価値労働・同一賃金をめざして！！



男性の1年より余計働いて、女性が男性1年分の賃金と同額を手にする日、それが「イコール・ペイ・デイ(=同じ賃金を手にする日)」。

男女間の賃金格差について考える世界規模のキャンペーンに私たちも取り組んでいます。

イコール・ペイ・デイって何？

毎年世界の各地で行われている『イコール・ペイ・デイ・キャンペーン』をご存じですか？

女性の平均賃金が男性より低いのは残念ながら世界共通です。女性が男性と同じ金額を手にするには、何日か余計に働く必要があります。男性の1年より余計働いて、女性が男性1年分の賃金と同額を手にする日、それが「イコール・ペイ・デイ(=同じ賃金を手にする日)」です。

2012年の場合、日本では4月16日(月)になります。2011年1月1日に男女が働き始めて、男性が1年間で手にした金額を、女性は2012年4月16日まで働いてようやく手に出来るということです。

世界各地でこのキャンペーンに取り組んでいるのが私たちBPWです。賃上げ闘争ではありません。賃金格差があることを様々な立場の方に理解していただくために、世界各国の仲間が智慧を絞っているのです。

各国のイコール・ペイ・デイ

イコール・ペイ・デイは国によって違います。2012年の場合、右記のようになります。



フランス



ベルギー

スイス	3月 7日
フランス	3月15日
ドイツ	3月23日
ベルギー	3月26日
オーストリア	4月 5日
アメリカ	4月12日
イタリア	4月15日
韓国	5月21日 (2011年度)

計算方法は国により若干異なりますが、各国で共通しているのは真っ赤なツールを使うこと。赤は赤字になっていることを表すと、赤はレッドカードの意味だとか…。また、男性と同じ時間働いても1個は買えないことをアピールして欠けた板チョコを贈る作戦もあります。

日本の場合、2012年のイコール・ペイ・デイは4月16日。これは厚生労働省の「賃金構造基本統計調査」の結果から計算した数字です。



スイス



EPD イベントに並ぶ人々



ドイツ政府とBPWドイツとの連携



BPW for a Better Parity!

BPW ロゴの特製赤い財布をもってアピール

## イコール・ペイ・デイの算出方法

### 1. 男女の賃金格差

最新の男女の賃金データ(上記調査の「2011年一般労働者統計」による)

男性: 328,300円

女性: 231,900円

計算すると女性は男性 100 に対して 70.6 となります。対象は一般労働者で、常用労働者のうち短時間労働者を除いたもの。

パート・アルバイトの数字は入っていません。

$100 - 70.6 (\text{女性賃金} \div \text{男性賃金}) = 29.4$

イコール・ペイ・デイの計算で取り上げる賃金格差の数字は 29.4%

### 2. 労働日の設定と格差の計算

まず、労働日数を月平均 22 日とします。これに 12(ヶ月)をかけて、年間労働日数を 264 日と確定します。

※これらの計算に祝祭日等は入れていません。

年間労働日数に、直近の男女賃金格差の格差分のパーセントをかけます。

今年の直近の数字は 29.4% ですから、

$264 (\text{年間労働日数}) \times 0.297 = 77.616 (\text{四捨五入}) \rightarrow 78 \text{ 日}$

$78 \text{ 日} - 22 \text{ 日} (1 \text{ 月}) - 22 \text{ 日} (2 \text{ 月}) - 22 \text{ 日} (3 \text{ 月}) = 12 \text{ 日}$

$12 \div 22 \times 30 = 16 (\text{小数点以下は四捨五入します})$

このような計算によって、2012年の日本におけるイコール・ペイ・デイは 4月16日となりました。

## 日本でのイコール・ペイ・デイ・キャンペーン

日本では 2012年4月16日に全国各地でイコール・ペイ・デイ・キャンペーンを実施しました。

### 東京クラブ



東京クラブ・第1回EPDを記念して皇居前でパチリ

### 山梨クラブ



甲府市人権・男女共同参画課長にEPDパンフレットを手渡す深沢会長

### 和歌山クラブ



EPDのチランを掲げる和歌山クラブ会員

### 北九州クラブ



小倉駅前、夕方帰宅途中の方々へEPDキャンペーンを展開する北九州クラブ会員

## CSW国連「女性の地位委員会」 インターン派遣事業

2012年2月27日～3月9日



CSWインターン派遣事業は、国際問題・国連問題に関心を持つ、あるいは将来その方面で活躍したいと願う女性を支援する目的で、2003年より始まりました。2011年度派遣で9回目となります。これは、日本BPW連合会が加盟するBPW International(BPWI)が、国連の「諮問的地位」を有する団体であることにより、初めて可能になるものです。この「女性の地位委員会」は今回で56回目となります。

### 【2012年度派遣インターン生】 (50音順・肩書きは参加当時)

小林 悠 (山梨県立大学4年)

照井奈々帆 (津田塾大学2年)

平野 歩 (津田塾大学2年)

吉原 彩 (跡見学園女子大学4年) 敬称略

### 【概要】

- 実施期間: 2012年2月27日～3月9日
- 場所: ニューヨーク国連本部
- 優先テーマ: Gender empowerment of rural women and their role in poverty and hunger eradication; development and current challenges (農山漁村女性のエンパワメント及び貧困・飢餓撲滅・開発・今日的課題に於ける役割)
- 参加民間団体数及び参加者数: 435団体 2,084人
- イベント数: サイドイベント数約70、NGOによるパラレルイベント約300
- 日本の参加者数: 約48名 (日本政府国連代表部第1回NGOへのブリーフィング参加者数)
- BPWからの参加者: インターン4名(小林悠、平野歩、照井奈々帆、吉原彩)及び、平松昌子、柳下真知子、黒崎伸子の計7名(敬称略)
- 日本のサイドイベント: 主催NGOは国連NGO国内婦人委員会、国際婦人年連絡会、JAWWの3団体(日本政府国連代表部後援)



黒崎伸子 BPW 連合会前会長(右)



日本NGO主催のサイドイベント

## ◇インターンシップを振り返って◇

小林 悠 山梨県立大学4年（参加時）

ニューヨークでは、毎日中身の濃い、充実した日々を送ることができました。私たちにインターンの機会をくださったBPWの皆様、出発前にお世話をくださった宇佐美様、現地で指導してくださった平松様、柳下様、黒崎様、ご支援くださった山梨BPWの皆様、山梨県立大学の先生方には大変感謝しております。



大学では山梨県の地域振興に取り組んできました。まちづくり、まちおこしも呼ばれる地域振興の活動に携わってきたのは、住みよい地域をつくることで、国際問題の改善に少しでも貢献したいと考えたからです。一つひとつの地域を活性化し、地域住民の生活が豊かになることで、世界が豊かになるのではないかと考えています。私が行った活動のひとつに、女性の知恵委員会があります。この委員会では、女性の視点で山梨県へ政策提言を行いました。委員会に参加する女性の中には、女性の雇用機会の創出や、ワークライフバランスについて政策を考える女性がいました。これまで学生生活で性差による不平等をあまり感じることはなかった私にとって、ジェンダーについて考える契機となりました。

このインターンへの参加を決意したのは、先に述べた女性の知恵委員会 で知ったジェンダーの問題について学びたい、また、国際的な視点からまちづくりを考えたいと思ったからです。大学の教授からインターン参加を勧められたとき、迷うことなく応募を決めました。

10月末にインターン生に選出された後、内閣府男女共同参画推進連携会議主催の「聞く会」や甲府市男女参画主催の「災害と男女共同参画」などの講演会に参加したり、ジェンダーについて書かれた文献を読んだりして、女性が抱える問題について理解を深めました。

そして2月24日、ついにニューヨークへの旅が始まりました。ニューヨークに到着した翌日は、引率してくださった平松さん、柳下さん、そしてインターン学生と共に国連本部へ行き、グランドパスを作成しました。例年手続きに時間がかかるようですが、今回はほんの10分ほどで完了しました。写真と名前が入ったパスを手にしたとき、インターンへ来たのだと実感し、感動しました。

2月26日はユニオンスクエア近くの国連サルベージン・アーミーでNGOのコンサルテーションデーがありました。グランドセントラル駅で偶然出会ったニュージーランドからの参加者と話しながら会場へ向かいました。彼女は学校



で数学教師をしていて、引退してからGOで活動しているそうです。会場には彼女のようなパワフルな女性が沢山いて、女性の地位向上のために活動している人々が世界にいたることに感銘を受けました。

2月27日からは、CSWの開始です。私は開会式へ参加する機会をいただき、国連の総会議場で傍聴をしました。議題の決定や、各国代表のスピーチが行われている様子を直接目にすることができました。立派で、警備の厳重な総会議場で行われる式は圧巻です。ジェンダー問題が、私たちの社会にとって重要な課題であるとひしひしと感じました。そして3月9日まで、各国代表によるサイドイベントや世界中のNGOによるパラレルイベントに参加しました。日本代表のサイドイベントは、東日本大震災をテーマとしていました。会場には多くの人々が訪れており、世界中から強い関心が集まっていることがわかります。

このイベントを通して災害時の支援の際、女性への配慮が必要なことがわかりました。女性への物資の提供は女性スタッフが担当する、避難所に女性専用スペースをつくるなど、普段どおりの生活を送ってはいわれないことを学ぶことができました。また、BPWだからこそできる、女性の仕事を支援する活動について知ることができました。助産師のマッサージの訓練用おっぱいを毛糸で作るプロジェクトの紹介には会場から強い関心を集められました。雇用と職業訓練の場を一度に創出するアイディアは、BPWらしい支援でとても素晴らしいものだと思います。

NGOが主催するパラレルイベントでは、女性の地位向上のために活動する人々と出会うことができました。イベントの



発表者の多くはNGO職員、医師、大学教授など、社会の中で活躍している人々でした。彼女たちは、自国の問題を改善するために活動しています。医療、教育、法律などそれぞれの女性が取り組む問題は多岐にわたります。そんな女性たちに共通するのは、問題意識を高く持ち、改善のために行動を起こしていることです。パラレルイベントの大部分は、自国の問題を訴えるだけのものではなく、現状をより良くするための活動を伝えていました。

私たちの周りには様々な問題があります。それはジェンダーであったり、地域間格差であったりします。でも、私たちは問題があることを嘆くのではなく、改善のために動かなければなりません。心強いことに、世界中には行動を起こしている多くの女性がいます。この世に生まれた人として、女性として、私も微力ながら改善のために活動していきます。私はこれから海外の大学院で学びます。卒業後はインターンで出会った世界中の女性たちのように、力強く生きていきたいと思っています。

※ 第56回CSW報告書は事務局で販売しています。  
ホームページからもダウンロードできます。

## JWLI (Japanese women's Leadership Initiative)

日本女性指導者育成事業

## 2012年JWLIフォーラム報告

JWLI (Japanese Women's Leadership Initiative) は、日本の社会の発展の為に、リーダーとして活躍を目指す日本女性達を支援するプロジェクトです。

この事業は、アメリカ・ボストン在住の日系フィランソロピスト(慈善事業家)であるフィッシュ厚子氏が、フィッシュファミリー財団の理事として、日本女性の為に出来る事をしたいとの、彼女の熱い思いと、財団の資金により、2006年度からスタートし、2012年今年、6期となりました。

ボストンでの研修プログラムは、アメリカにおける非営利組織(NPO)による社会貢献の運営の在り方と、女性のリーダーシップについて学ぶ1カ月のプロフェッショナルな集中プログラムです。

2010年からは、研修のプログラムがさらに発展して、より多くの広範囲の人々に伝える、フォーラムとして支援プロジェクトが拡大し、第1回フォーラムは6月、東京と福岡で開催されました。

2011年は、第2回フォーラムが、開催地は、横浜と名古屋で予定されていました。しかし、直前に東日本大震災が起き、アメリカからのスピーカーの来日が不可能となり、やむなくキャンセルとなりました。

2012年第2回フォーラムは、3・11の大震災後の日本社会の変化、特にNPO組織、女性指導者の活動が、より重要な役割を求められる現状の中で、オーディエンスにとっては、「社会の為に何が出来るか？」を共に学び、ともに考える機会となるプログラムとなりました。

フォーラムの参加者は、横浜250名、和歌山120名と予想を大きく上回り、



また参加者からはプログラム内容や登壇者についての高い評価をいただき、フォーラムは成功裡に終了致しました。

## ◆◇ JWLIフォーラムプログラム ◇◇

## &lt;横浜市&gt; 「あなたの力が社会に生きる」

2012年4月7日(土) 10:00~12:30

横浜市 社会福祉センター 4階ホール

## &lt;和歌山市&gt; 「あなたの力が社会を動かす」

2012年4月8日(日) 13:30~16:15

和歌山市 県民交流プラザ和歌山ビッグ愛12階

## 【第1部】 基調対談

横浜:

女性リーダーとしてイニテアティブを取り、よりよい社会の為に人生を歩んでいらした二人、林文字子市長とフィッ

シュ厚子氏、女性指導者のロールモデルのお二人のキャリアや社会活動の経験から学ぶ対談。BPW平松氏の司会によるインタビュー形式で、林市長からは”コミュニケーション”、フィッシュ氏からは”ビジョン”の大切さを聴衆は学ぶ機会となりました。フィッシュ厚子氏は、昨年震災直後にボストンでスタートした「日本災害復興基金」について、その後東北の各地に数度にわたり足を運び現地の本当のニーズを学び、スピード感のある適切な支援活動を行ってきた経緯を詳しく報告。市民として、イニテアティブをとって行動を起こす事の重要性を熱く語りました。



## 和歌山:

和歌山では、第1部、社会に貢献する女性のリーダーシップについて、フィッシュ厚子氏とパトリシア・デイトン氏の経験と活動から学ぶ対談でした。フィッシュ氏は、東北に対する活動から、頼もしい若者たちとの出会いや、NPOの女性たちの活躍を紹介。デイトン氏から、アメリカでは女性の指導者たちが社会の改革に大きく貢献している事。そして、アメリカのNPO全体の50%以上は、女性の代表によって運営されていること等、NPO活動の成功には、女性的価値が、極めて重要である事が語られました。



## 【第2部】 基調講演 (横浜・和歌山共通)

## 「イノベーションを起こす力」

## ～経済と社会を繋ぐ発想と指導力～

グローバル・ギビング創設者および代表の倉石 真理氏による、今までにない発想による21世紀の社会貢献のビジネスモデルとして、アメリカはもちろん、ヨーロッパでも注目されている「資金調達運営のサイト組織」の紹介。

グローバル・ギビング創立時から、現在の成功に至るまでの、具体的な活動や組織のシステムの詳細の紹介を通して、今後のNPOのあり方を学ぶ貴重な講演。自らの人生をも語りながら、日本のNPO組織に対する提案や、女性リーダーに対してのメッセージを熱く語りました。なお、震災直後からグローバルギビングを通して、世界111国以上から8億2千万円の義援金をあつめ、日本の複数のNGOを通して、復興支援活動を続けている事も、活動の一つとして紹介しました。

## 【第3部】女性指導者及びNPO代表者からの活動報告

横浜:

若い女性の社会起業家、ワークイングリッシュ代表・山田貴子さん。女性ならではの発想で社会の課題を解決しつつビジネスを成功させている現状を講演。会場の若い女性たちや学生たちを魅了しました。



**<BPW Initiatives>**

1



**equal pay day,**

2



**Women Entrepreneurs and Trade**

3



**EMPOWERMENT PRINCIPLES**

1. イコール・ペイ・デイ  
2. 女性起業家と商業  
3. 女性のエンパワメント原則

**<女性のエンパワメント原則WEPs>**

- ①リーダーシップによるジェンダー平等の推進
  - ②均等な機会、インクルージョン、差別撤廃
  - ③健康、安全、暴力からの自由
  - ④教育と研修
  - ⑤事業開発、サプライチェーン、マーケティング活動
  - ⑥コミュニティにおけるリーダーシップと参画
  - ⑦透明性、成果の測定、報告
- 翻訳: 国連グローバル・コンパクト研究センター

**<一枚の写真>**

オランダ大統領・新聞僚 2012.5.16.



在日フランス大使館ホームページより

新しい大統領のもと、新内閣は男女同数！オランダ大統領の選挙公約を実現。重要な地位に女性の代表やリーダーがいることで、決断や行動が早い事が、さまざまなジェンダーの問題改革に繋がっている。

**「女たちの、女たちによる仕事づくり」復興支援金**

- 郵便局からのお振込の場合  
記号 10080  
番号 32423911  
口座名 トクヒ)ニホンビーピー  
ダブルレンゴウカイ
- 銀行からのお振込の場合  
ゆうちょ銀行  
店名 ○○八(ゼロゼロハチ)  
店番 008  
普通預金  
口座番号 3242391  
口座名 トクヒ)ニホンビーピー  
ダブルレンゴウカイ

**お振込み時の担当者へお願い**

- ・振込み手数料はご負担願います
  - ・クラブ名を明記願います
- ※通帳に表示されるのは、半角 9 文字、全角だと 8 文字までのため、BPW は不要ですが、入れる場合は、必ず英字でお願いします。
- 良い例 ◎トウキョウクラブ  
◎BPWトウキョウ
- 悪い例 ×ビーピーダブルトウ→東海?東京?  
×ビーピーダブリュ→クラブ名不明  
×担当者個人名→検索必要

**和歌山:**

女性たちの活動と成果や支援活動について地元NPO3名の方々からの報告のあと、トークセッション。コーディネーターはBPW松原理事長。パネリストは、小野田真弓さん(NPOファンデ『わらみんファンデ』)、西川一弘さん(和歌山大学サテライト部特任教員)、松本千賀子さん(NPO法人 Com デザイン理事長)。地元ならではの課題に取り組む3名のNPOの方々へ、会場から熱い声援が送られました。



**- Message -**

◇フィッシュ厚子さんから

*You can make a difference ! Give back to the society !*

◇パトリシア・デイトンさんから

52 年前、当時の米国大統領であったジョン・F・ケネディがこんな言葉を残しています。その言葉とは、「国が皆さんのために何ができるかではなく、皆さんが国のために何ができるか、それを問うてみましょう」というものでした。今日こそ意味が大きく、私たちに響いていくのではないかと思います。今日のテーマは「あなたの力が社会を動かす」というものですが、ここで皆さんに改めてうかがいと思います。皆さんが社会を動かすために何ができるでしょうか。何をしていきますか？



◇倉石真理さんから

皆さまへ次のことを実行していただきたいと思います。皆さんの現在の生活のなかで、社会に貢献できるようなことを見つけていただきたいと思います。これは仕事を通してでも、ボランティア活動を通してでも、またはお金に余裕のある方は寄付を通してでも、何でもかまいません。社会貢献は実にさまざまな形で参加することが可能なので、どのような可能性があるのか、今一度ゆっくり考えてみてください。

**— 最後に —**

この JWLI フォーラムは、アメリカ NY の米日財団の資金援助により、開催されました。また、横浜フォーラムは、横浜市市民局男女共同参画推進課、BPW 東京クラブ、JWLI 研修卒業生、ヤングスピーチ参加者の多くの皆様のご協力、そして和歌山フォーラムは、BPW 和歌山クラブの多くの皆様の大きな努力により、実現いたしました。チームワークが大きな成果となりましたことのご報告と、関係者の皆様へ心からの感謝をお伝えします。

JWLI プロジェクトリーダー 組織委員長 櫻井啓子

.....

**<お知らせ>**

- ◆ロシア *Russia*  
BPWネバ・クラブ15周年記念行事  
期間:2012年9月14日—16日  
会場:ニコラエフスキー宮殿  
(サント・ペテルスブルグ)  
主催:BPWロシア ネバ・アソシエート  
会長:ナタイヤ・ゼエンスカヤ博士
- ◆台湾 *Taiwan*  
BPW アジア・太平洋地域会議  
期間:2012年12月1日—3日  
会場:グランドホテル(台北)  
担当:BPW 台湾(会長:呂 秀蓮)

